【資料番号３】

美 幌 町

小中一貫教育推進ビジョン

令和６年７月

美幌町教育委員会

目　　次

１　小中一貫教育推進の背景　……　１

（１）　国の動向

①　小中一貫教育の制度化

②　教育内容や学習活動の質的・量的充実

（２）　継続的・系統的指導と教育環境の保障

（３）　教育効果を最大化させるチーム学校の実現

（４）　美幌町における状況

①　学校の適正配置

②　学校間の連携と９年間を見通した教育

③　学校アンケートの結果

２　美幌町が目指す小中一貫教育　……　５

（１）　目的

（２）　意義

（３）　基本目標

（４）　目指す子供像と育成したい資質・能力

（５）　具体的な実践

（６）　求められる教員像

（７）　期待される効果

３　小中一貫教育の学校形態　……　１１

（１）　施設一体型

（２）　施設分離型（中学校区）

（３）　施設隣接型（中学校区）

４　義務教育学校による小中一貫教育　……　１１

５　令和６年度教育行政執行方針による表明　……　１３

資料編（学校アンケートについて）　……　１４

Ⅰ　小中一貫教育推進の背景

（１）　国の動向

①　小中一貫教育の制度化

小中一貫教育については、国において、教育再生実行会議の第５次提言や中央教育審議会答申を経て、平成２７年６月の通常国会で、９年間の義務教育を一貫して行う新たな学校の種類である「義務教育学校」の設置を可能とする改正学校教育法が成立し、関係政省令、告示と合わせて平成２８年４月１日に施行されました。

この制度改正によって、小学校と中学校が別々の組織として設置されていたことに起因していた様々な実施上の課題が解消され、教育主体・教育活動・学校マネジメントの一貫性を確保した取組が容易になるなど、全ての教職員が義務教育９年間に責任を持って教育活動を行う小中一貫教育の取組を継続的・安定的に実施できる制度的基盤が整備されました。

また、令和3年には中央教育審議会答申において、児童生徒数の減少により学校教育の維持が困難となっている現状においても、持続的で魅力ある学校教育が実施できるよう、学校規模の適正化や学校間の連携の在り方について、地域の実情に応じた様々な選択肢を検討していく必要があることが指摘されました。

このような状況を踏まえ、学習指導要領の着実な実施により義務教育の目的・目標を達成する観点から、小学校６年間、中学校３年間と分断するのではなく、義務教育９年間を見通した小中一貫教育を推進し、教育課程・指導体制・教員の養成等の在り方等について一体的に検討を進める必要があります。

②　教育内容や学習活動の質的・量的充実

子供たちが、これからの予測困難な時代を力強く生き抜いていくためには、今必要な知識を習得するだけでなく、社会の変化に主体的に対応し未来を創造する力が必要となります。グローバル化が進む社会の中で、多様な他者と協働しながら新たな価値を創造していくためには、自らの力で未来を切り拓いていく資質・能力を獲得していかなければなりません。

平成２９年告示の学習指導要領では、新たに「学校間の接続」が重要とされ、校種間の連続性を意識した教育活動を行うことが一層求められています。また、学校教育を学校内に閉じずに、目指すところを社会と共有・連携しながら実現させる「社会に開かれた教育課程」、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善、「GIGA スクール構想の実現」に向けた ICT 教育の推進等、新たな教育活動の推進も求められています。

このような教育内容や学習活動を質的・量的に充実させるためには、小・中学校の教育が連携し、専門的な指導の充実や児童生徒のつまずきやすい学習内容について、長期的な視点に立った学びの実現、学習内容や指導方法の工夫に取り組むことの重要性が増しています。

（２） 継続的・系統的指導と教育環境の保障

諸調査の結果から、小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活不適応を起こす、いわゆる「中１ギャップ」の問題が明らかになっています。また、いじめの認知件数の増加、不登校児童生徒の増加、特別支援学級の児童生徒の増加等の課題も見られます。

これらの課題を解決するためには、小学校から中学校まで、段差のない継続的・系統的な学習指導・生活指導の実現が鍵を握ります。そのような教育環境の保障される小中一貫教育を推進することにより、子供の自己理解や他者理解を深め、人間関係形成力や思いやりの心、自己肯定感を育てていく必要があります。

（３） 教育効果を最大化させるチーム学校の実現

社会や環境の変化に伴い、子供や家庭、地域社会が変容する中、生活指導に関わる課題等が複雑化・多様化し、学校や教職員だけでは十分に解決できない問題が増えています。

このような現状に対応するためには、多様な価値観や豊富な経験を有する人材がそれぞれの専門性に応じて、学校運営に参画することで、学校の教育力・組織力を効果的に高めていくことがこれからの時代には不可欠です。学校教育においては、

ア 義務教育９年間を見通した教育課程の編成・実施

イ 専門性に基づく指導体制の構築

ウ 学校のマネジメント機能の強化

エ 教職員一人ひとりが強みや力を発揮できる環境の整備

等の改革を進め、小・中学校の教職員が一つの組織の中で「チームとしての学校」を実現することで、教育効果を最大化させることが重要となります。

（４） 美幌町における状況

① 学校の適正配置

今後の美幌町における児童生徒数の推計は、以下の通りとなっています。

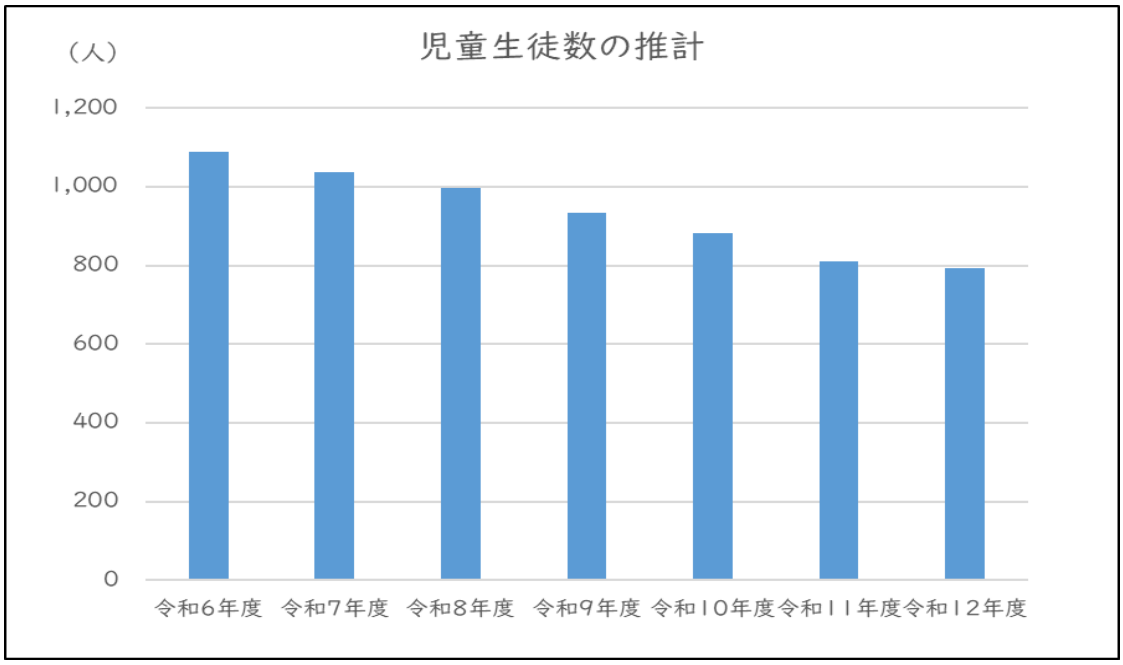
＜美幌町の児童生徒数の推計＞

（単位：人）

	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
美幌小学校	254	235	233	226	216	193	180
東陽小学校	250	227	213	202	194	175	172
旭小学校	167	155	145	142	140	130	130
小学校計	671	617	591	570	550	498	482
美幌中学校	188	190	193	171	157	151	155
北中学校	231	229	214	193	175	160	156
中学校計	419	419	407	364	332	311	311
合　計	1,090	1,036	998	934	882	809	793
（うち特別支援）	165	166	170	160	144	123	116

※令和6年度は令和6年5月1日現在の在籍一覧による実績。令和7年度以降は「学齢簿年齢別人口統計」による推計（特別支援学級の児童生徒数：小学校は入学者数の18%、中学校は入学者数の10%で推計）

美幌町の児童生徒数については、少子化の深刻な影響が見られ、各学校とも年々減少傾向の見通しにあります。令和６年度では小中学校全体で 1,090 人となっていますが、令和１２年度の推計では 793 人と、今後６年間で約 300 人（１年あたり約 50 人）の減少が見込まれます。近い将来、クラス替えがない、行事等で集団形成の維持が難しくなるなど、これまで同様の教育活動ができなくなることが予想されます。子供たちに適切な教育環境を保障する観点からも、学校の適正配置は重要な課題となっています。



② 学校間の連携と９年間を見通した教育

本町においては、これまで中学校区毎の小中連携の在り方について検討を重ね、様々な実践に取り組んできました。

学力向上や ICT の活用推進に関しては、町主催で各学校の管理職や代表教員による委員会を組織し、学力向上の取組に関する協議や、ICT の有効活用に関する実技研修会などを開催してきました。

また、特別支援教育に関しては、義務教育９年間を連続した教育として捉え、９年間を見通した教育のあり方を、小学校と中学校が十分に共有することが大切であることから、その体制をさらに強固なものとするために、美幌町教育支援委員会を年に複数回開催し、

ア 児童の学習状況や生活指導上の課題の引継ぎ

イ 学習や生活ルールの小・中学校間での共有

ウ 教科における系統的な指導や教育課程の実施状況

等について、小学校から中学校への接続の円滑化を図る取組を推進してきました。今後も、特別支援教育における小・中学校間の連携はますます重要となりますので、取組を継続させていきます。

③　学校アンケートの結果

美幌町小中一貫教育推進ビジョンの策定に向けて、児童生徒及び教員に、以下の内容のアンケートを実施しました。このアンケートは、美幌町が目指す子供像との関連において、児童生徒に育成したい資質・能力の現状を把握することを目的に実施したものです。

アンケートでは、児童生徒 897 人（回収率 90%）、教員 94 人（回収率 89%）からの回答を得ました。その中で、「1 思う」、「2 どちらかといえばそう思う」というプラス評価の回答を集計したところ、概ね達成している状況と判断できる項目が多くみられました。

しかし、「自己肯定感」「粘り強さ」「ふるさとへの誇り」等にはやや課題も見られました。また、児童生徒と教員の回答に温度差があるものや、学年が進むにつれて達成状況が低くなっている項目もいくつか見られました。

子供たちがこれからの複雑な社会を生き抜くために必要な資質・能力を明確にし、学校教育を中心に育成していくことが求められています。本調査から見えてきた実態を踏まえ、美幌町の子供に育成したい資質・能力を、小中一貫教育推進ビジョンに位置づけるとともに、「美幌スペシャル」や「美幌スタンダード」（後述）等の具体的な教育活動を通して、育成・涵養を目指していきます。

※アンケート結果の詳細は、P14～資料編『学校アンケートについて』に掲載

＜アンケート項目と資質・能力＞

【自分自身のこと】

① 自分で考え、判断し、行動していますか？（主体性）
② 難しいことでも、失敗を恐れないで、挑戦していますか？（チャレンジ精神）
③ 自分には、よいところや好きなところがありますか？（自己肯定感）
④ 将来の夢や希望をもっていますか？（夢実現）
⑤ 目標を決めたら、粘り強く取り組めますか？（粘り強さ）
⑥ 知らないことがあった時、もっと知りたいと思いますか？（向上心）
⑦ 間違っていることには、見て見ぬふりをせず、ダメと言えますか？（公正・公平）

【人との関わり】

⑧ 友達のよさを見つけたり、違いを認めたりすることは大切だと思いますか？（多様性）
⑨ 友達と協力して、課題を解決することは大切だと思いますか？（協働性）
⑩ 人に感謝の気持ちをもったり、伝えたりしていますか？（感謝）
⑪ 学校で友達と勉強したり、運動したりするのは楽しいですか？（学校生活への意欲）
⑫ いろいろな人と話をしたり、交流したりすることは楽しいですか？（コミュニケーション能力）

【ふるさと美幌】

⑬ 美幌町の自慢できるところはありますか？（ふるさとへの誇り）
⑭ 美幌町の好きなところはありますか？（郷土愛）
⑮ 将来、美幌町のために役に立つことをやってみたいですか？（郷土愛）

2　美幌町が目指す小中一貫教育

（1）　目的

小学校と中学校が目的を共有し、小中の教職員が一体となって、学習指導や生活指導等に組織的・系統的に取り組み、義務教育９年間を見通した連続性のある小中一貫教育を行うことで、児童生徒にこれからの社会を生き抜く資質・能力を育成します。

（2）　意義

全ての教職員が義務教育９年間を見通した小中一貫教育の下で、責任を持って教育活動を行うことで、小学校と中学校が別々の組織として設置されていたことに起因する、教育活動の方法、学習指導や生活指導の考え方の違いや、小・中学校間に存在する段差の解消が期待されます。

また、学校に認められている小中一貫教育に必要な独自教科の設定、指導内容の学校種を超えた前倒しや後送り、教育課程編成の学校裁量権の拡大等を活用することで、児童生徒や教職員の意識の高揚、資質・能力の育成、学力の向上、中１ギャップの未然防止、特別支援教育の充実等の成果が期待されます。

（3）　基本目標

これまでの社会は、知識の獲得が重視され、皆と同じことができることに価値のある時代でした。日本の多くの企業も利益追求に必要な忠誠心のある人材を求めてきました。しかし、現代はグローバル化が進み、多様性が益々尊重され、加えてICTや人工知能の技術の進化は加速する等、複雑で見通しのつかない社会となっています。これからの社会は、個々の良さや個性、新しい価値を生み出す能力が重視される等、人と違うことに価値が見いだされる時代とされています。

一方で、都市部の一極集中や地方の過疎化が進み、出生数の減少が今後も避けられない美幌町も多くの課題を抱えています。今や地方創生は日本において喫緊の課題であり、美幌町もその例外ではありません。

このような時代の変化を見据え、本町では小中一貫教育の利点を最大限に生かし、今後の複雑な社会を生き抜いていく子供たちに必要な資質・能力の育成を目指していきます。小中一貫教育を推進していくにあたり、美幌町の教育大綱に掲げる「夢を育む体験！あたたかい人をつくるまちづくり」を基本理念とし、基本目標を次の通り設定します。

美幌町の小中一貫教育の基本目標

ワンチームで 意欲や自己肯定感を高める 教育の推進	９年間を見据えた共通指導で 社会を生き抜く力を育てる 教育の充実	段差のない系統で ふるさと愛や夢を育む 教育の創造

【基本目標１】

「ワンチームで意欲や自己肯定感を高める教育の推進」

基本目標１を実現するために、目指す子供像を「未来に向かって創造的に考え、主体的に行動する子供」と設定し、学習指導要領に基づく義務教育９年間を見通した教育課程を編成し、学校が一つのチームとなって誰一人取り残さない教育を推進し、創造的で主体的な子供を育てます。

【基本目標２】

「９年間を見据えた共通指導で社会を生き抜く力を育てる教育の充実」

基本目標２を実現するために、目指す子供像を「心豊かで自他を尊重し、共に高め支え合う子供」と設定し、教職員が小中の校種を超えて相互に連携・協力し、発達段階に応じた切れ目のない一貫した学習指導、生活指導により、多様性や協働性をもった子供を育てます。

【基本目標３】

「段差のない系統でふるさと愛や夢を育む教育の創造」

基本目標３を実現するために、目指す子供像を「ふるさと美幌を愛し、夢を持って学び続ける子供」と設定し、校長の方針の下、地域の教育環境を効果的に活用し、段差のない系統的な実践を積み重ねることで、郷土愛や夢をもった子供を育てます。

（４）　目指す子供像と育成したい資質・能力

これからの社会を生きる児童生徒には、自分の良さや可能性を認識するとともに、あらゆる他者を価値ある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の担い手となることが求められています。

美幌町としても、揺るぎない教育理念のもと、学校・家庭・地域との連携を深め、小中一貫教育の特性を生かし、義務教育９年間を見通した教育課程を通じて、未来を生き抜く子供を育てていきます。そのために、目指す子供像とその具現化に必要な資質・能力を次の通り設定し育成を目指します。

美幌町が目指す子供像

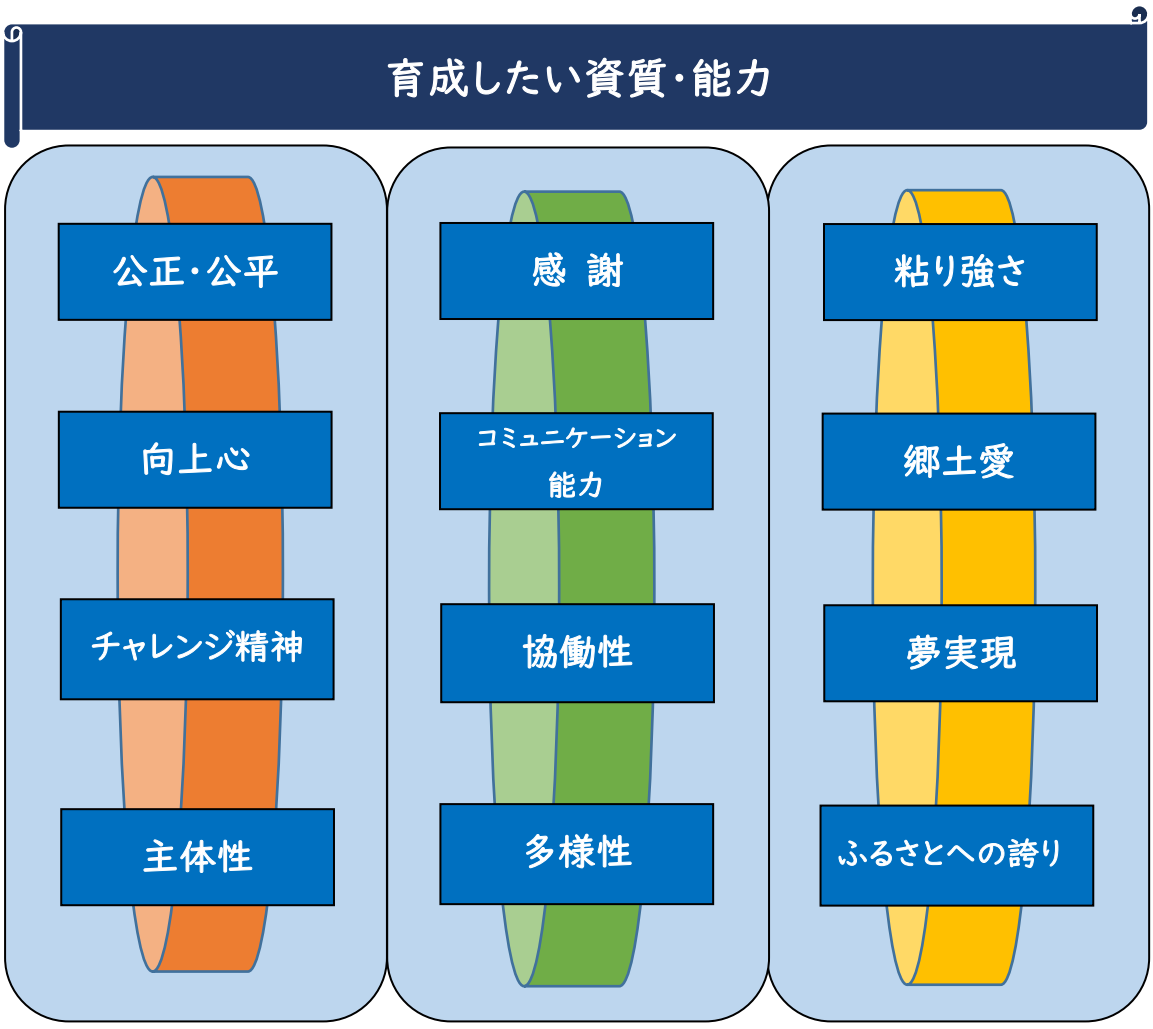
未来に向かって 創造的に考え 主体的に行動する子供	**心豊かで 自他を尊重し 共に高め支え合う子供**	**ふるさと美幌を愛し 夢を持って 学び続ける子供**

【目指す子供像】

① 「未来に向かって創造的に考え、主体的に行動する子供」
その実現のため、子供たちに育成したい資質・能力として、
「公正・公平、向上心、チャレンジ精神、主体性」
を位置づけます。

② 「心豊かで自他を尊重し、共に高め支え合う子供」
その実現のため、子供たちに育成したい資質・能力として、
「感謝、コミュニケーション能力、協働性、多様性」
を位置づけます。

③ 「ふるさと美幌を愛し、夢をもって学び続ける子供」
その実現のため、子供たちに育成したい資質・能力として、
「粘り強さ、郷土愛、夢実現、ふるさとへの誇り」
を位置づけます。



（５） 具体的な実践

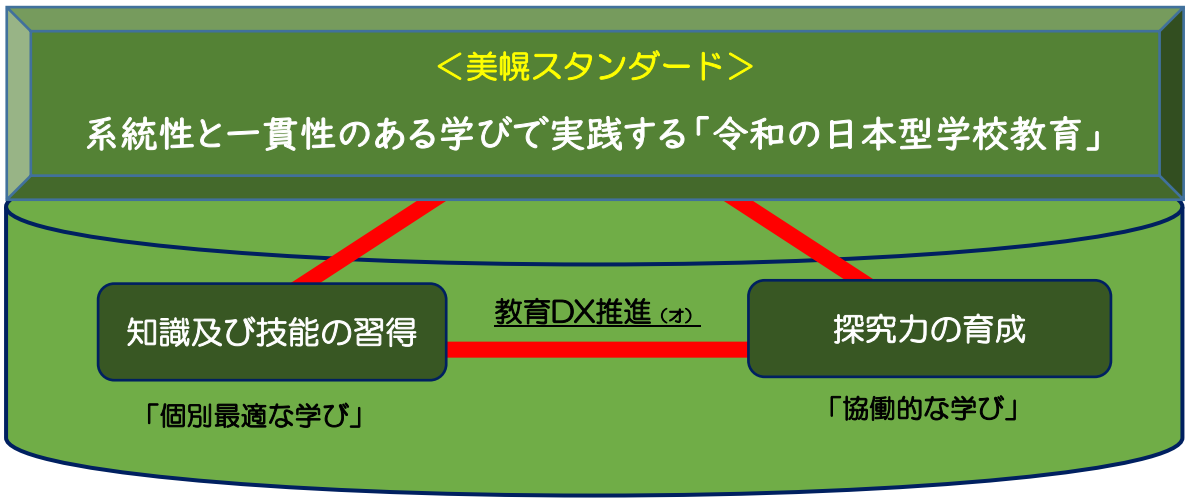
自ら考え主体的に行動し、社会性・人間性豊かで自他を尊重し、ふるさとへの誇りと夢を持って学び続ける児童生徒を育てるために、学校・家庭・地域が協働する９年間を見通した小中一貫教育の中で、美幌町の特色ある教育活動として、次の２つの実践を推進します。

【美幌スペシャル】

実践の１つ目は、系統性と一貫性のあるカリキュラムによる「グローカル教育」の推進です。具体的には、特色ある教育活動の要として『英語教育』『キャリア教育』『ふるさと教育』を美幌スペシャルとして位置づけ、自己理解を深め郷土愛と夢を持って主体的に学び続ける児童生徒を育てます。

【美幌スタンダード】

実践の２つ目は、系統性と一貫性のある学びで「令和の日本型学校教育(ア)」の実現を目指すことです。具体的には、『知識及び技能の習得』『探究力の育成』を美幌スタンダードとし、全学年共通の学びのスタイルとして位置づけます。個別最適な学び(イ)と協働的な学び(ウ)を一体的に充実させることで、主体的・対話的で深い学びを実現し、自己調整力(エ)を身に付け、協働性や多様性を尊重する児童生徒を育てます。



「美幌スタンダード」による日常実践の積み上げを土台とし、「美幌スペシャル」での学びを深めることを通して、個々の児童生徒の可能性を最大限に引き出し、個性や主体性を発揮するグローカル人材の育成と、令和の日本型学校教育の実現を目指します。

【 用語解説 】

（ア）「令和の日本型学校教育」とは・・・

教員の説明や解説が多い授業（教員が教える）から、子供の側に立ち子供を主語にする（子供が学ぶ）という視点で授業を捉え直す教育のことです。
（全ての子供の可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現を目指します。）

（イ）「個別最適な学び」とは・・・

全ての子供に基礎学力を習得させるために、一人ひとりにあった柔軟な指導を行うことです。
（個別最適な学びには、「指導の個別化」と「学習の個性化」の2つの側面があります。）

「指導の個別化」とは・・・

＊一定の目標を全ての児童生徒が達成することを目指し、個々の児童生徒に応じて異なる方法で学習を進めることです。

「学習の個性化」とは・・・

＊個々の児童生徒の興味・関心に応じた異なる目標に向けて、学習を深め広げることです。

（ウ）「協働的な学び」とは・・・

探究的な学習や体験活動などを通じて、子供同士や多様な他者と協働しながら学んでいくことです。この中には、児童生徒の自己調整力の育成なども含まれます。

（エ）「自己調整力」とは・・・

学習者が自分の学習プロセスを管理したり、適切な学習方略を選択したりする能力のことです。授業においては、自分の到達度をメタ認知し、自らどのような方向性で学習を進めていったらよいかを考え、自分自身で調整しながら適切な行動をとることです。

「メタ認知」とは・・・

＊人が認知していること（「きっかけ」から「結果」に至るまで）を、自分で客観的に把握することです。例えば、自分の中のもう一人の自分が、自分自身を冷静に見ることです。

（オ）「教育 DX（デジタルトランスフォーメーション）」とは・・・

データやデジタル技術を活用して、学習のあり方や学校教育をよりよく変革することで、時代に対応した教育を確立することです。

（６） 求められる教員像

教員は、義務教育９年間に責任を持って教育活動を行い、小・中学校の組織文化の違いを乗り越え、互いに協力しながら、目指す子供像の実現と資質・能力の育成に努めます。

① 教育の専門家としての自覚と使命感をもち、常に自己を高めようとする教員
② 明るく元気で笑顔を忘れず、子供や保護者の思いに寄り添う教員
③ 高い倫理観と人権意識をもち、他者を敬い接することができる教員

（７） 期待される効果

＜児童生徒＞

① 相互乗り入れ指導、合同授業や合同行事等を通して、異学年の児童生徒同士の関わりが深まり、豊かな人間性や社会性が育ち、自己肯定感や自己有用感が育まれることが期待できます。

② 上学年が下学年に成長モデルを示すことで、上級生としての自覚が芽生え、下学年は上学年に対して憧れの気持ち、相互に思いやりの気持ちが生まれることが期待できます。

③ ９年間を見通した指導を行うことで、小・中学校間の指導内容や指導方法に関する理解が深まり、児童生徒のより一層の学力定着が期待できます。

【美幌スペシャルの推進で期待される効果】

ア ふるさとへの誇りの醸成
イ 思いやりの心の涵養
ウ 言語能力の向上
エ 自己理解、他者理解の深化
オ 人間関係調整力の形成
カ 自己決定力の向上
キ 夢実現への意欲の高揚

【美幌スタンダードの推進で期待される効果】

ア 情報活用能力の向上
イ 主体的に取り組む態度の涵養
ウ 自己調整力の向上
エ コミュニケーション能力の向上
オ 多様な見方、考え方の醸成
カ 対話力、合意形成力の向上
キ 自己肯定感の高揚

＜教職員＞

① 小・中学校相互の良さを取り入れることで、教員が互いに協力して指導する意識や基礎学力保障の意識が高まり、教科指導力の向上が期待できます。

② 児童生徒の様子や実態、課題等を共有することで、一貫した学習指導や生活指導を行うことが可能となり、小・中学校間の理解が深まります。

③ 相互乗り入れ指導等により、これまで小・中学校間で溝のあった教員の意識の変容や、９年間を見通して子供を育てるという意識改革が期待できます。

④ 児童生徒に関する情報共有を日常的に行うことで、特別な支援、いじめ、不登校、暴力行為、中１ギャップ等、学校単独では解決が困難な課題の解決が期待できます。

＜家庭・地域＞

① 小中一貫教育の取組を通して成長していく児童生徒の姿を、体験活動や直接的な交流、学校便りや学校ホームページ等を活用して情報を共有することで、家庭・地域から継続的な信頼や支援を得ることが期待できます。

② 地域の教育資源を活用した学習を通して、地域との連携や実践的な学びが促進され、子供たちの地域社会に貢献する意識が高まり、地域の歴史や文化を学ぶ機会が増え、視野が広がることが期待できます。

3 小中一貫教育の学校形態

（1） 施設一体型

同じ敷地・校舎内で小学校1年生から中学校3年生までが一緒に生活し、組織・運営ともに9年間の一貫した学習や活動を行います。

児童生徒、教職員の移動に時間がかからず効率的に小中一貫教育が進められる一方で、施設整備には多額の経費がかかります。

（2） 施設分離型（中学校区）

中学校とその通学区域内の離れた場所にある小学校間で、教育課程及び教育目標に一貫性を持たせ、互いに連携・交流して9年間の一貫した学習や活動を行います。

既存の校舎を活かすことで、経費を抑えることができるが、児童生徒、教職員の移動に時間がかかり、小中一貫教育を効率的に進められない場合があります。

（3） 施設隣接型（中学校区）

中学校通学域内の隣接する小・中学校で、教育課程及び教育目標に一貫性を持たせ、互いに連携・交流して9年間の一貫した学習や活動を行います。

分離型ほど校舎間の移動に時間はかからないものの、小学校校舎、中学校校舎が隣接していなければこの形態をとることができません。

4 義務教育学校による小中一貫教育

小中一貫教育の学校形態は「施設一体型」「施設分離型」「施設隣接型」があり、それぞれの形態ごとに利点や課題があります。

美幌町としては、児童生徒への良質で効率的な教育環境を提供することを最優先と考え、小中一貫教育の利点をさらに活かすことができる施設一体型の「義務教育学校」による教育を目指します。

義務教育学校にすることで、

ア 小中一貫校でとられている「6－3制」に縛られることなく、初等教育6年と中等教育3年の計9年間の課程を柔軟に一体化できること

イ 一人の校長の下、一つの教職員組織が置かれることで、目的の共有が容易になること

ウ 学校の教育目標が一つとなり、その具体化に向けた実践が、義務教育9年間を見通した発達段階を考慮して行われること

エ 教科・領域の特性や系統性を考慮した教育課程が編成され、教員相互に9年間で育てるという意識が生まれること

オ 子供たちの学習スタイルや学校生活様式の変化で、段差が軽減されること

など、多くの利点が考えられるからです。

小学校と中学校の区切りがない義務教育学校においては、柔軟に学年制を変更できるほか、一人の校長、一つの校内組織になることから、これまで小・中学校の教員間に存在していた、いわゆる「文化の違い」の解消も期待でき、学校がワンチームとして機能することが期待できます。

また、９年間で子供を育てるという視点で、発達段階に応じた系統的・継続的な教育課程の編成・実施も可能となります。美幌町の小中一貫教育の特色として打ち出す「美幌スペシャル」や「美幌スタンダード」の指導も、義務教育学校にすることで更に効果的な取組になることが期待できます。

義務教育学校による小中一貫教育を推進することで、様々な相乗効果が期待でき、子供の資質・能力の育成をはじめ、本町が目指す子供像や目標の実現も可能になります。

【 学校段階を設定した時の「資質・能力」育成の重点（例） 】

義務教育学校にすることで、「６－３制」に縛られることなく学年段階を設定することができます。

例えば、子供の発達段階を考慮し、

「第Ⅰステージ」 ＝ １年生～４年生

「第Ⅱステージ」 ＝ ５年生～７年生

「第Ⅲステージ」 ＝ ８年生～９年生

のように設定することも可能となります。そうすることで、７ページで示した資質・能力も、下記のようにステージ毎に重点を設定し、系統的・継続的に育成を目指すことができます。

なお、「１５才の姿」とは、義務教育学校の卒業時点で目指す最上位の資質・能力として例示しています。

＜学年段階と資質・能力の育成の重点＞

目指す子供像 ／ 学年段階	未来に向かって創造的に考え、主体的に行動する子供	心豊かで自他を尊重し、共に高め支え合う子供	ふるさと美幌を愛し、夢を持って学び続ける子供
第Ⅰステージ	公正・公平	感謝	粘り強さ
第Ⅱステージ	向上心	コミュニケーション能力	郷土愛
第Ⅲステージ	チャレンジ精神	協働性	夢実現
15才の姿	主体性	多様性	ふるさとへの誇り

５　令和６年度教育行政執行方針による表明

美幌町においても少子化を見据え、子供たちの活動に支障を来たさない集団による教育環境を維持し、公教育としての質を保障するために、義務教育９年間を連続した教育課程として捉え直す必要があります。

そのような未来像を踏まえ、令和６年度の『教育行政執行方針』において、教育長が「義務教育学校による小中一貫教育の推進」という以下の方針を示しました。

> 文部科学省は、義務教育９年間を通した教育課程、指導体制、教員の育成等の在り方を一体的に検討する必要があるとする中、学校現場では少子化による児童生徒数の減少により、授業等でのグループによる学び合いや、切磋琢磨する機会の減少のほか、学校行事では一定規模の集団形成の維持が保たれないなどの課題があります。
>
> こうした課題を解決するため、小中学校９年間を見通した切れ目のない教育の推進と持続可能な教育環境を確保するため、施設一体型の義務教育学校１校による小中一貫教育の導入が必要と判断し、学校施設敷地を基本とした改築や新築を行った上で、令和１３年度の開校を一つの目安として、スピード感を持って取り組んでまいります。

美幌町としては、教育の質を高め、子供たちの資質・能力を育成・醸成していくことに主眼を置き、一貫性・連続性のある義務教育学校の導入を進めてまいります。

資料編

学校アンケートについて

（1）実施期間

令和6年4月16日（火）～令和6年4月30日（火）

（2）対象

町内の全小・中学校の小学2年生～中学3年生及び教員（校長・教頭含む）

（3）アンケート回収数（率）

	小学校	中学校	計
回収数／全児童生徒数 （回収率）	523人／578人 (90%)	374人／420人 (89%)	897人／998人 (90%)
回収数／全教員数 （回収率）	63人／68人 (93%)	31人／38人 (82%)	94人／106人 (89%)

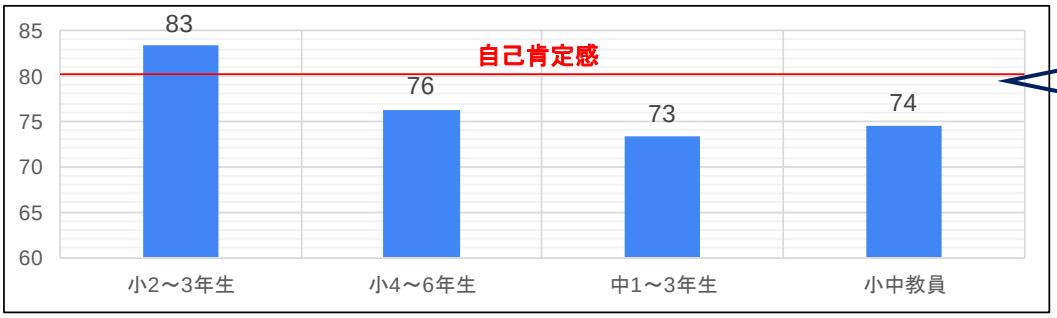
(4) アンケート結果

回答の類別		
1	ある	プラス評価
2	どちらかといえばある	
3	どちらかといえばない	マイナス評価
4	ない	

80%未満の表示			
~79%	~69%	~59%	~49%

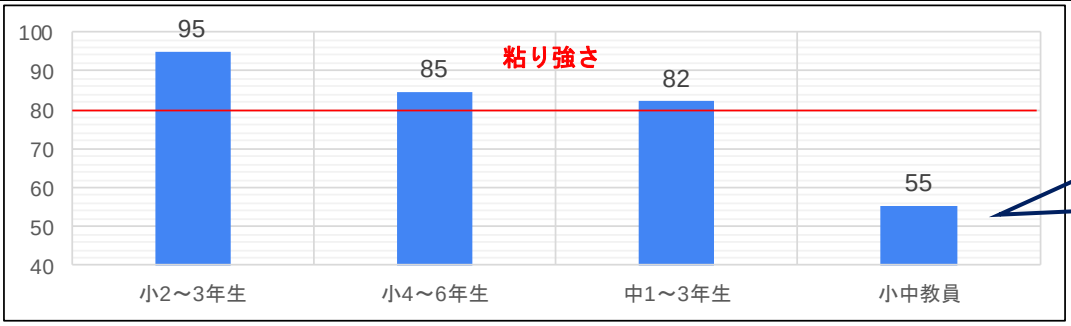
回答(1+2) %

調査項目と質問内容	小学校		中学校	教員
	小2~3年生	小4~6年生	中1~3年生	小中教員
【自分自身のこと】				
1 主体性 Q1 自分で考え、判断し、行動していますか？	93	93	93	79
2 チャレンジ精神 Q2 難しいことでも、失敗を恐れないで、挑戦していますか？	85	81	75	82
3 自己肯定感 Q3 自分には、よいところや好きなところがありますか？	83	76	73	74



80%未満が多い

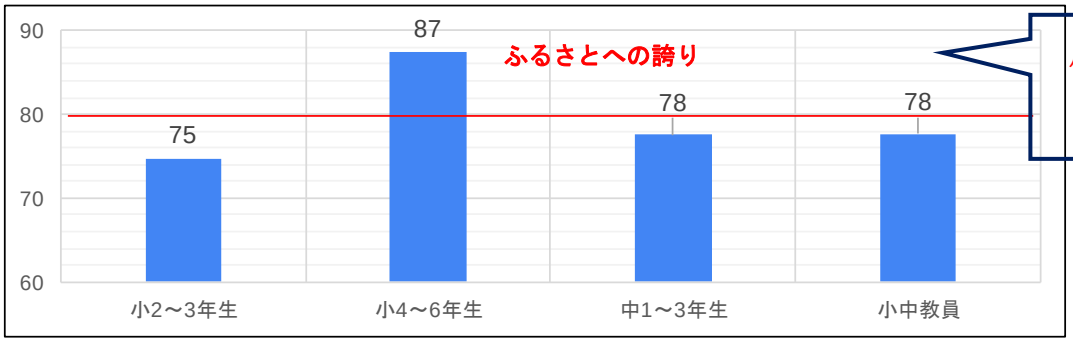
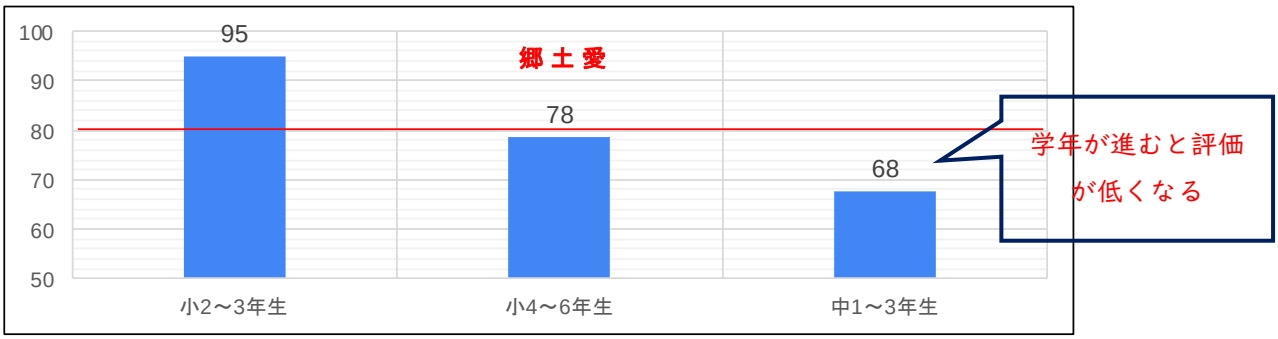
4 夢実現 Q4 将来の夢や希望をもっていますか？	91	84	70	78
5 粘り強さ Q5 目標を決めたら、粘り強く取り組めますか？	95	85	82	55



教員の評価が低い

6 向上心 Q6 知らないことがあった時、もっと知りたいと思いますか？	87	88	85	84
7 公正・公平 Q7 間違っていることには、見て見ぬふりをせず、ダメと言えますか？	76	85	72	88

調査項目と質問内容	小学校		中学校	教員
	小2～3年生	小4～6年生	中1～3年生	小中教員
【人との関わり】				
8 多様性 Q8 友達のよさを見つけたり、違いを認めたりすることは大切だと思いますか？	95	97	98	90
9 協働性 Q9 友達と協力して、課題を解決することは大切だと思いますか？	96	97	97	97
10 感謝 Q10 人に感謝の気持ちをもったり、伝えたりしていますか？	94	93	94	95
11 学校生活への意欲 Q11 学校で友達と勉強したり、運動したりするのは楽しいですか？	95	91	92	90
12 コミュニケーション能力 Q12 いろいろな人と話をしたり、交流したりすることは楽しいですか？	93	91	91	76
【ふるさと美幌】				
13 ふるさとへの誇り Q13 美幌町の自慢できるところはありますか？	75	87	78	78



14 郷土愛 Q14 美幌町の好きなところはありますか？	88	92	84	84
15 郷土愛 Q15 将来、美幌町のために役に立つことをやってみたいですか？	95	78	68